

## オンライン脚本公開サイトにおける 著作権侵害対策

安徳恭彰<sup>†</sup> 藤村直美<sup>††</sup>

オンライン脚本公開サイトを運用している。利用者がオリジナル作品を登録すると、無審査で自動的に一般公開される。この方式は利便性は高く、全国の中高校をはじめとする多くの施設で利用されている。しかし、その反面、著作権侵害作品の登録なども簡易に行えるため、その対策も無視することはできない。著作権問題の根本的な解決は難しいが、運用によるリスク軽減を図るシステムを構築したので報告する。

## Copyright infringement measures in online scenario library

Yasuaki Antoku<sup>†</sup> and Naomi Fujimura<sup>††</sup>

We are operating the site to gather and open the online scenario to the public. The convenience of this site is high because of the scenario is registered automatically without examination. However, one of the problems is the registration of the copyright infringement work etc.. It is difficult to solve a fundamental problem of the copyright. Because we implemented the report system to reduce the issue of copyright infringement, it reports.

### 1. はじめに

平成 13 年よりアマチュア劇作家の脚本公開サイトを運用している[1]。全国各地のアマチュア劇作家が自身のオリジナル脚本を登録し、公開することで創作意欲を掻き立てることに役立っている。また、演劇上演等を予定する 2 次利用者も全国の中学高校等を中心に幅広く利用している[2]。

青空文庫[3]をはじめとする電子図書館は、いつでもどこからでも目的の作品にアクセスできるという従来の図書館にはない利点を持つ。本サイトは演劇用の電子図書館としての利便性だけでなく、登録作品を上演につなげることで更なる付加価値を生み出す。また、作品が上演されることで、アマチュア劇作家の創作意欲が高まるだけでなく、創作技術の向上に資するなど、教育的な意味合いも大きい。

本サイトでは、登録時の審査無しに、いつでも誰でもオリジナル作品を自由に掲載し、公開できる。この方式では作品登録利用者の利便性が高い反面、推敲の足りない安易な作品や未完性作品の登録も可能である。また、誤ってもしくは故意に他者の著作物に対する権利を侵害する作品が登録される場合もある。推敲の足りない安易な作品や未完性作品の登録に関しては、評価システムを構築するなど、対応を行ってきた[4][5][6]。

一方、他者の著作物に対する権利侵害に関しては、解決策を講じぬまま、報告がある都度、管理者が手作業で対応にあたってきた。本サイトの仕様上、こういった著作権侵害事例を未然に防ぐのは不可能である。なぜなら、未然に防ぐためには、公開前に何らかの審査が必要であり、手作業によって審査を行うことは、本サイトの最大の利便性を損なうこととなる。著作権侵害に関する解釈は専門家によってもまちまちであり、はっきりと白黒つけられるものではない。また、あからさまな権利侵害作品に対し、強制的に対応することも可能であるが、それらの作品でさえも、権利元に正当に許可を得た作品である可能性も否定はできない。しかし、これらの行為を早急に発見し、対処することは必要不可欠である[7]。

そこで我々は、著作権侵害事例に対し、報告システムを構築して対応することを考えて、運用を開始した。本報告システムは第三者である一般閲覧者によって著作権侵害の可能性を報告された場合に、報告者からの連絡を登録著作者に自動配信し、一定期間内に適切な対応がなければ自動的に公開を停止する。

---

<sup>†</sup> 九州大学大学院芸術工学府  
Kyushu University Graduate school of Design  
<sup>††</sup> 九州大学大学院芸術工学研究院  
Kyushu University Faculty of Design

## 2. システム概要

本サイトは、自動登録式の脚本公開サイトである。サーバ（OS: FreeBSD 7.1-RELEASE-p8）上に、Apache/1.3.42, Perl5.8 を用いてシステムを構築している。本サイトにおける作品登録および公開の流れを図 1 に示す。本システムは、アマチュア劇作家がオリジナルの脚本を登録し、一般の二次利用者に公開するデジタルアーカイブシステムである。本システムの利用者として、主にオリジナル作品の掲載を希望するアマチュア劇作家、公開された作品を閲覧、または上演を希望する二次利用者、そして公開されている作品の評価を行う評価者の 3 種類を想定している。

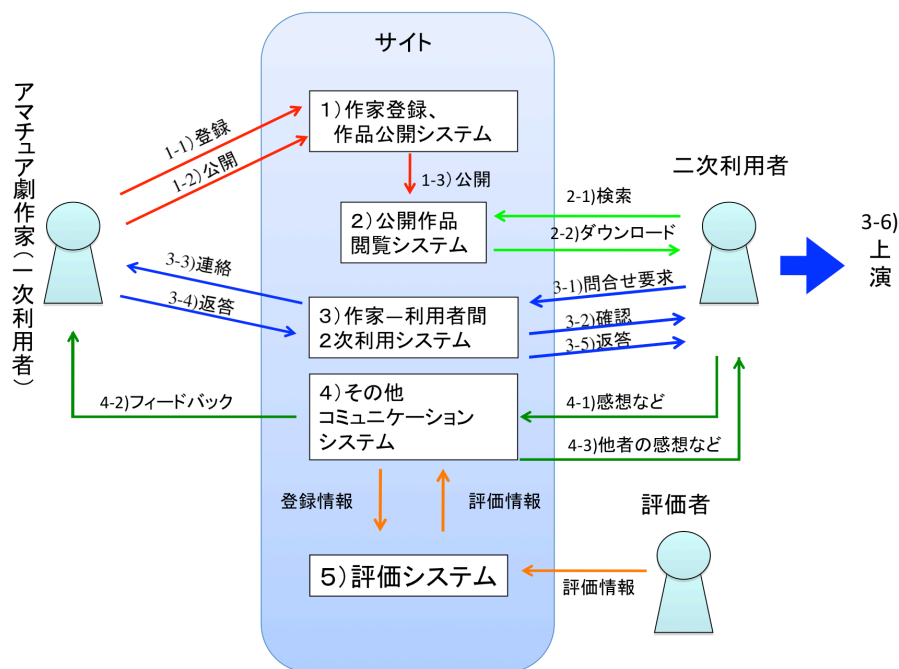


図 1 システム構成図

本サイトは、以下の5つのサブシステムから構成されている。

- 1) 作家登録、作品公開システム

- 2) 公開作品閲覧システム
- 3) 作家-利用者間二次利用システム
- 4) その他コミュニケーションシステム
- 5) 評価システム

一次利用者であるアマチュア劇作家は、1)のサブシステムで作家登録を行い、自身のオリジナル作品を登録し、公開する。公開された作品は2)により二次利用者に一般公開される。二次利用者が公開された作品を上演など二次利用したい場合は、3)により一次利用者との連絡を取る。

作家登録時には登録メールアドレスによる本人確認を行うが、それ以外には特に制限を加えていない。このため登録後は、無条件で作品が一般公開される。公開された作品は、トップページで新着案内に掲載され、二次利用者の目に触れる。二次利用者は、公開された作品を閲覧し、気に入った作品があれば上演につなげる。

評価者は、公開された作品を閲覧し、各作品の評価を入力することで登録作品の質の向上を目指す。

## 3. 著作権侵害対策

本サイトにおける著作権侵害行為が懸念される箇所は2カ所存在する。1カ所は、二次利用者が上演に至る際に、一次利用者へ無断で上演を行うケース（無断上演）である。もう1カ所は作品登録の際に、一次利用者であるアマチュア劇作家が他人の著作物の権利を侵害した作品を登録するケース（無断登録）である。

### 3.1 無断上演に対する対策

本サイトは登録作品を公開することで、2)のシステムから誰でも自由にダウンロードし閲覧することが可能となる。本サイトにおいて、ダウンロードし、閲覧するまでは無料としているが、上演などに二次利用する際は作者の許可を必要としている。しかし、作者側に無断で上演するケースも時折見受けられる。この問題に関しては、啓蒙活動および、3)の二次利用システムを通して、作者側との連絡を行いやすくすることで対応している。

### 3.2 著作権侵害作品の無断登録に対する対策

登録作品が他者の著作権作品の権利を侵害するケースとしては、様々な状況が考えられる。

#### 3.2.1 悪意を持ったケース

意図的に著作権侵害を認識しつつ、権利侵害作品を掲載するケースである。また、他の利用者に対する売名や、偽善的な意識から提供を試みるケースも含む。例えば、

著名なミュージカル作品などの台本を切り貼りして、1時間（高校などの大会規定時間）内におさめたものを掲載したケースなどもあった。

### 3.2.2 著作権に対する誤解や無知から生じるケース

著作権に対する無知や、理解不足から生じるケースである。著作権切れの誤解釈から生じるケースなどである。作者が死亡すれば権利がなくなるといった勘違いから、海外作品で原作の著作権は切れているが翻訳（二次著作）の権利はまだ残っているケース、引用、原作としての利用であればどこまでも許されるといった誤解も多い。また、著作権法第38条により非営利、無料であるから権利は関係ないといった勝手な解釈も多くある。著作権法第38条は条件により様々な制限が発生し、またその解釈も解釈する側によって様々な解釈されているため、判断が難しい。

### 3.2.3 著作権侵害ではないケース

著作権が残る作品の二次創作物の場合でも、正当な権利者に二次著作物であることの許可を得ている作品や、著作権切れの二次著作物は、著作権侵害作品にあたらない。しかし、著作権切れの期間の判定などは作品によって異なり判断が難しい。

### 3.2.4 判断が難しいケース

また、ありがちな話や、ありがちなストーリー展開など、どこまで類似しているかを判断しにくいケースもまま存在する。例えば、主人公の女の子が遅刻しそうになって、曲がり角で男の子とぶつかり恋が始まるなどといった、いわば古典的なストーリー展開などは原典がどの作品か見極めることが難しい。

また、二次三次著作物に対する判断も難しい。例えば、作品Aは作品Bのまねをしているのではないかという問い合わせを受けたことがあるが、作品A、Bともに著作権切れの作品Cの二次著作物であるケースなどである。

## 4. 対策の検討

これら様々なケースに対応するべく、著作権侵害作品の無断登録を防止するための対策を講じた。まず、はじめに審査システムの構築を検討した。審査システムを導入した場合の、作品を登録し公開するまでの流れを図2に示す。

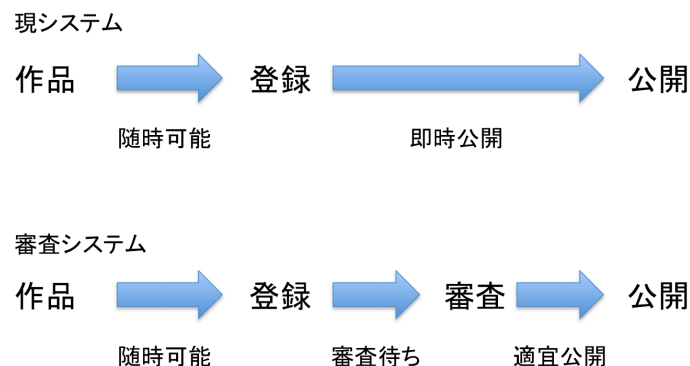


図2 作品公開までの流れ

現状では、作品を登録し、公開するまで、すべて自動で行われており、登録された作品は即時公開となっている。ここで、登録から公開までの途中過程に審査過程を挿入することを考える。審査は任意の審査員によって行われ、審査を通過した作品のみ公開することにする。

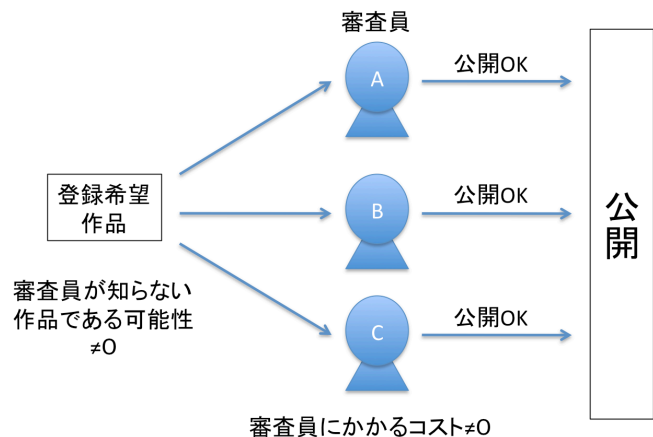
この条件の下での、審査システムによる効果および欠点を考慮したものを表1に示す。

表1 審査システム導入時のメリットデメリット

	メリット	デメリット
現状	・登録作品の即時公開可能	・登録作品の是非が不明
審査システム導入時	・著作権侵害作品をはじめとする作品のフィルタリングが可能	・審査待ちの時間が生じる ・審査員の都合によって、公開までの時間がかかる ・審査員にかかるコスト ・審査員が知らない作品のチェックはできない

表1より、審査システムを導入した場合、問題作品のフィルタリングは可能であるが、

利便性が損なわれること、本サイトの有用性も損なわれる。



審査員が知らない作品は、チェックできない

図 3 審査システムの限界

また、図 3 に示すように、無限に審査員を選任することもできないため、審査員をどう選任するか、審査員にかかるコストをどう負担するかなど問題も多い。仮に、これらの問題を解消した場合でも、登録希望作品が選任された審査員が知らない作品の著作権を侵害していた場合、フィルタリングとしての意味をなさないこととなる。

本サイトでは、以上をふまえ、現状でのメリットをつぶしてまで審査システムを導入するメリットを見いだせなかったため、審査システムの導入は見送ることとした。

## 5. 著作権侵害対策報告システム

これらの問題をふまえ、本サイトでは公開前の審査システムではなく、公開後の著作権侵害対策のための報告システムを構築し、著作権侵害の対策とした。報告システムの基本的な流れを図 4 に示す。本サイトで公開された作品を閲覧した一般利用者が、内容に関し著作権侵害等の疑義を覚えた場合、報告システムを用い、報告する (図 4

①)。報告内容は、作家、および管理者に電子メールで連絡される (図 4②)。報告内容は作家からの返答が無い限り、一般利用者には公開されない。作家への連絡後、作家は本報告システムの返信機能を利用して回答を行う (図 4③)。返信は該当作品の作家のみ可能とする。

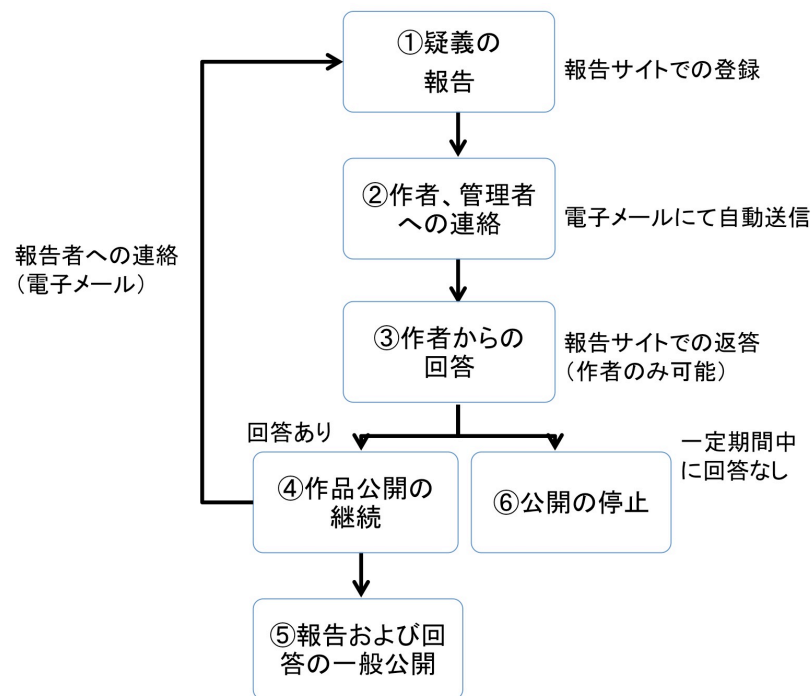


図 4 著作権侵害対策報告システム

期間内に、登録作家より適切な対応があった場合は、基本的に問題なしと判断する。これは、作家が疑義に対し、同意する場合は、自身の作品の該当部分を訂正、もしくは公開をやめると考えられ、返答が行われる場合は、疑義に対する正当な回答、もしくは適切な内容訂正が得られたと判断するためである。返答後は、通常の公開状態に戻す (図 4④)。そして、当初の報告者に、返答内容がメールにて送信される。

また、返答後は、疑義の報告と、作家よりの返答を本サイト上で公開する (図 4⑤)。返答を公開することで、安易な回答による公開停止の回避は妨げられる。また、作者側の著作権に対する誤った解釈による侵害行為を防ぐことも可能となる。さらに返答

に対し新たなる疑義が生じた場合、別の利用者から疑義が投げられることも可能となる。

一定期間内に作家より返答が無い場合は、当該脚本の公開を停止する(図4⑥)。当初より、本サイト上では、登録脚本毎に「公開」「非公開」のステータスを持ち合わせていたが、今回はこれに加え「公開停止」のステータスを加えた。「公開」「非公開」は作家自身でステータスを変更できるが、「公開停止」は作者自身によって変更できない、より上位の権限としている。これは、問題のあった作品が安易に再公開されては、本報告システムの意味がなくなるためである。

## 6. 結果

本報告システムは、平成20年6月からのテスト運用を経て、8月より本格稼働した。本報告システムの画面例を図5～図7に示す。図5は各作品の詳細情報閲覧のためのページで、このページの赤丸で囲まれたリンクをクリックすることで報告システムの入力画面に移動する。

### うどんの王様

(うどんのおうさま)

初演日:2000/5 作者:グッキーあんどく

初演会場 久留米市民会館小ホール

初演劇団 劇団KnockOutシアター

キャスト総数 5 (男:3 女:1 その他:1)

上演時間 85分

あらすじ 鹿児島県出身の大学生アキラ、アキラは留学生のウ・チェンに恋をする。

そしてついにアキラの告白、

アキラ「おいは、うどんが好きでござす。」

しかし、ウさんはカレーが食べたかったのだ。

(このあらすじはフィクションです。本編とは全く関係ありませんのでご注意ください。)

著作権使用料 はりこのトラの穴の規定に準ずる

その他

ジャンル (100満点:自己申告)

ラブストーリー (0)

感動巨編 (0)

お笑い (100)

ミュージカル (0)

サスペンス (0)

青春もの (0)

時代劇 (0)

SF (0)

ファンタジー (0)

(2003/6/2 18:00 更新)

[冒頭だけ読む](#) | [この作品の感想を読む](#) | [この作品の評価](#) | [上演記録](#) | [上演案内](#) | [著作権侵害報告](#) | [この作品の作者へ連絡](#) | [評価\(要ログイン\)](#)

面白いと思ったら、続きは全文ダウンロードで!

図5 画面例

図6は、実際の報告入力画面である。題名の作品に対し著作権問題の報告ができる。メールアドレスを入力すれば、作者からの返答があり次第、メールアドレス宛に回答内容が転送される。

## はりこのトラの穴 著作権問題掲示板

著作権侵害に関する問題がある場合は、こちらからご連絡をお願いします。連絡後、作者から回答がない場合は、公開が停止されます。



題名

名前

E-mail  E-mailアドレスは公開されません。作者からの返答時に連絡があります。

コメント

図6 報告システム入力画面

図7は、報告内容の一般向け公開ページである。報告内容に対し作者からの回答が組になって表示される。ただし、報告があったばかりで、作者からの回答が得られていない場合は、報告内容も未公開となっている。これは、誹謗中傷など報告にそぐわない回答があった場合への対策である。

## はりこのトラの穴 著作権問題掲示板

著作権侵害に関する問題がある場合は、こちらからご連絡をお願いします。連絡後、作者から回答がない場合は、公開が停止されます。



書き込みは各作品の詳細ページから行ってください。

全部まとめて 新しい順 5件 変更

No.5 うどんの王様 2010年10月27日(水) 10時22分  
(作者問合せ中) ← 未回答の問い合わせ

No.3 Test作品 さん 2010年08月26日(木) 00時20分  
テストしてみます。 ← 回答済みの問い合わせ

No.4 Test作品 さん 2010年08月26日(木) 00時24分  
自己レスでテストしてみました ← 作者からの回答

図 7 報告内容閲覧画面

本報告システムを運用することで、著作権侵害の問題に対する対応が明確になり、早急な問題対応が可能となった。また、登録作家の応答の有無によって公開継続の判断を行うことで、著作権侵害であるかどうかのグレーゾーンの判断を軽減できると考える。

本報告システムでは、登録作家からの回答を待つ間、該当作品は公開されたままとなる。回答があるまで、一時的に公開を停止することも考えたが、悪意の報告者による迷惑行為が懸念される。今後は、回答待ちの該当作品には注意書き等を付記し、利用には注意を要する旨を一般利用者に伝えることを検討したい。

## 7. おわりに

作権侵害に対する報告システムを構築した。本報告システムを活用していくことで、管理者の悲嘆をあまり増やさずに、著作権問題に対する早急な対応が可能となった。また、著作権問題だけでなく、誹謗中傷等、公開することに差し障りのある作品に対しても同様に自動的な対応ができるものとする。

**謝辞** 本報告システムの構築にあたり、ご協力、ご助言頂いた森崎啓介様、およびサイト利用者の方々に厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] 脚本登録&公開サイト「はりこのトラの穴」: <http://haritora.net/>
- [2] 安德恭彰, Web システムを利用した脚本公開サイトの構築, 第 61 回電気関係学会九州支部連合大会, 2008.09.24
- [3] 青空文庫 URL:<http://www.aozora.gr.jp/>
- [4] 安德恭彰, 藤村直美 Web 脚本公開システムにおける評価システムの構築, 第 141 回マルチメディア通信と分散処理・第 73 回グループウェアとネットワークサービス・第 46 回電子化知的財産・社会基盤合同研究発表会, 2009.11.26.
- [5] Yasuaki Antoku, Naomi Fujimura, Implementation of evaluation system in scenario open to the public with Web Interface, Asia Digital Art and Design Association: The 7th International Conference ,2009.12.19.
- [6] Yasuaki Antoku, Naomi Fujimura, Implementation of the evaluation system in online scenario library, International Journal of Asia Digital Art and Design, Vol.12, p5-10, 2010
- [7] 安德恭彰, 藤村直美, オンライン脚本公開サイトにおける著作権侵害対策, 第 63 回電気関係学会九州支部連合大会, 2010.09.26